

第1学年西組 国語科学習指導案

「楽しくつないでお話名人 ～『なにに見えるかな』～」

学習指導者 小出 早織 支援員 玉井 亮輔

1 学級（34名）の実態

（1）働きかけを行う自己調整力に関する実態

〔学びを正確に捉える力〕

アンケートによると国語科の時間に、新しく分かったことやできるようになったことが何かということを考えている子供は28名であった。しかし、単元の振り返りの時間では、「劇をしたのが楽しかった」「クイズをしたのがおもしろかった」などのような発言が多く、自分にどんな力が付いたのか意識できている子供は少ない。

（2）教科に関する学級の実態

子供たちはこれまでに、自分が見付けた春のものについて何をどのように伝えるかや、友達の発表を集中して聞くことを学習してきた。また、遊びを含む学校生活の中で、友達同士で話し合う経験を重ねている。しかし、1年生の友達同士での会話においては、それぞれが言いたいことを言い合って満足している状況が見られる。相手の話を聞き、言葉を繰り返したり質問したりして、話をつないでいく様子はほとんど見られない。また、友達と話すことに苦手意識がある子も数名いる。

本単元で習得させたい「学びを正確に捉える方法」

他者と共に学習前後の自分の話のつなぎ方を比較し、できるようになったことを見付ける

2 本単元で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

本単元までに子供たちは、生活科の学習で集めた様々な形や色の葉っぱや木の実を並べて、見立て遊びを行い、人によって作った物や見え方が違うことに気付いている。単元の初めに生活科での学習を想起したことで、「自分や友達が並べた葉っぱや木の実が何に見えるのか話したい」という思いをもった子供たちは、話すことに苦手意識がある友達がいるというアンケートの結果を見ることや、教師と支援員が実際に反応を返したり、質問したりしながら話しているモデルと自分たちが普段ペアで話している様子についての動画を比較することで、「僕たちは、話がすぐに終わってしまって全然楽しそうじゃないな」「友達と話すのが苦手な人もいるんだね」などと問題を見だし、「自分たちも先生たちみたいに話をつないで楽しく話したいな」という思いを高めるだろう。そして「葉っぱや木の実が何に見えるか、友達と話をつないで楽しくお話ししよう」という言語活動を設定し、学習計画を立てる。そして、教師のモデルを基に「反応を返す」や「質問する」という、相手の発言を受けて楽しく話をつなぐコツを見付け、三人組で役割を交代しながらコツを使って話す練習をする。その後、これまでの話合いの動画と本時の動画、使った言葉や話をつなげた回数を記録したチェックシートを基に、友達とお互いの話し方を確認することで、楽しく話をつなぐコツが使えるかを振り返り、本時できるようになったことを客観的に捉えていくのである。例えば、「質問する」言葉を使った練習を振り返る際には、「動画を見ると〇〇さんは、『このどんぐりが足なの』や『この葉っぱは何なの』と分からないことを聞いているね。前の時よりも質問ができるようになってきているね」「チェックシートを見ると質問する言葉がたくさん使っていて、話がつながった回数が増えているよ」「分からないことやもっと知りたいことを質問すると前よりも話がつながるようになって嬉しいな」と、自分の学びを正確に捉えていこう。このような学習を通して、話がつながることで友達の考えをより理解することができ、楽しく会話ができたという経験をした子供たちは、日々の生活でも獲得した楽しく話をつなぐコツを生かそうとするだろう。

3 単元構成の工夫

(1) 【魅力的な目標を子供と共有】①

生活科の学習を想起後、事前のアンケート結果を見ることや、教師と支援員による対話のモデルとペアで夏休みの思い出について話す動画を比較することで、自分たちの話し方を客観的に捉えられるようにする。そして、話がすぐに終わっていることや相手の話を聞いても反応できていないことに気付かせて話し方についての問題を共有し、「自分たちも先生たちみたいに話をつないで楽しく話したいな」という意欲を高めて言語活動を設定する。その後、教師のモデルから、楽しく話をつなぐコツには「反応を返す」と「質問する」の二種類がありそうだという見通しをもたせ、それを基に学習計画を立てる。また、友達と実際に話すことへの意欲を高めるために、生活科の時間に行った見立て遊びでの作品を学習支援アプリ上に写真で残しておき、見せて話したい作品3つ(③の「反応を返す」練習時に使用する作品、④の「質問する」練習時に使用する作品、⑤の単元の終末で話合いに使用する一番お気に入りの作品)決めておく。

(2) 【子供が自ら選択して、学びを進める場の設定】⑤

自分の作品の中から一番お気に入りの作品について楽しく話すために、第二次で獲得した「反応を返す(復唱して確かめる・共感を示す・感想を言う)」や「質問する」という楽しく話をつなぐコツを相手の話の内容に合わせて使っていく。また、第二次と同様に同じ三人組で課題解決に向けて話す際には、話をつなぐ目標回数や振り返るタイミング(一人が終わってすぐに振り返るのか、三人が全て終わってから振り返るのか)を相談し、それぞれのグループに合った方法を選択できるようにする。

(3) 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て(本時 4/5)

次	学習の流れ	手立て
一	<p>① 学習の計画を立てよう</p> <p>生活科の学習を想起後、事前のアンケート結果を見ることや教師と支援員による対話のモデルとペアで夏休みの思い出について話す動画を比較し、自分たちの話し方を客観的に捉えて問題を共有する。そして、自分たちも先生たちみたいに話をつないで楽しく話したいという思いから言語活動を設定して学習計画を立てる。</p>	<p>【のびのびタイム】③～⑤</p> <p>認知③時間目では、単元の導入で用いた夏休みの思い出についてペアで話している動画と本時の「反応を返す」言葉を使って話す動画やチェックシートを友達と一緒に確認して、できるようになったことを見付けると、自分の学びを正確に捉えることができることを教示する。</p>
二	<p>② どのように反応を返したらよいか考えよう</p> <p>教科書の例を基に話す教師のモデルから、「反応を返す」言葉を見付け、友達の発言を聞いて復唱して確かめたり、共感し感想を伝えたりするとよいことを捉える。そして見付けた言葉以外にも使える言葉がないか考えて共有し、チェックシートを作る。</p> <p>③ 反応を返す言葉を使って話す練習をしよう</p> <p>前時に見付けた「反応を返す」言葉を使って、話をつなぐ練習をする。その後、三人組でチェックシートや動画を基に、自分の話のつなぎ方を振り返る。</p>	<p>想起④⑤時間目には、「自分がどれくらいレベルアップしたか見付けるためには、どうすればよかったのかな」と問い、話し合う動画やチェックシートを使って友達と前時までの自分の話のつなぎ方と本時の姿を比較し、できるようになったことを見付けるという方法を想起できるようにする。</p>
三	<p>④ どんなことを質問したらよいか考えて、話す練習をしよう</p> <p>教科書の例を基に話す教師のモデルから、どんなことを質問するとよいか考えてチェックシートを作る。見付けた言葉を使って前時と同じ三人組で話をつなぐ練習をする。そして、これまでのチェックシートや動画を基に、自分の話のつなぎ方を振り返る。</p> <p>⑤ 見付けたコツを使って、友達と楽しくお話ししよう</p> <p>これまでの学習を生かして、一番お気に入りの作品を見せながら話し合う。本時とこれまでのチェックシートや動画を比べ、単元の学習を通してできるようになったことを振り返る。</p>	<p>実感友達と話し合う様子の動画やチェックシートなどを蓄積しておくことで、学習前後の自分の話のつなぎ方を比較し、楽しく話をつなぐコツが使えるようになったことを捉えやすくする。また、単元を通して同じ友達とチェックし合うようにすることでお互いの変化や成長に気付きやすくする。</p>

4 本時の学習

目 標	楽しく話をつなぐために、どのような質問をすればよいかを教師のモデルを基に考えることを通して、質問する言葉に気づき、友達に質問することができる。
--------	---

学習活動と手立て	主な子供の意識
見 通 し	<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>前は「反応を返す」言葉を使って、楽しく話がつながるように練習したよ。 友達の話を聞いて、頷いたり、聞いたことを繰り返したりすると、話す人も聞く人もどちらも楽しく話をするのができたよ。 今日は、もっと話がつながるように、どんなことを質問したらよいか考えて、話す練習をしたいな。</p> <p style="text-align: center;">どんなことを質問したらよいか考えて、話す練習をしよう</p>
行 動	<p>2 どんなことを質問したらよいか考える。</p> <p>もっと話をつなぐためには、どんなことを質問したらよいのかな。先生たちが話している様子から見付けよう。 「これが足ですか」が質問する言葉 「何をしているの」も質問する言葉じゃないかな。 「足」のところに「尻尾」や「頭」を入れても、質問することができるよ。 分からないことやもっと知りたいことを質問すると話がつながるし、友達のことがもっと分かって楽しそうだね。 今見付けた言葉を三人組で練習する時に使ってみよう。練習する時は、この前みたいにチェックシートで確認しながら練習しよう。</p> <p>3 「質問する」言葉を使って話をつなぐ練習をする。</p> <p>この前は、2回話がつながったから、今日は「何をしているの」と聞いて、3回以上話がつながるようにしたいな。 私は、これがうさぎに見えるよ。 うさぎに見えたんだね。 「この葉っぱは耳かな」という質問ができていた そうだよ。この細かい葉っぱが耳で、この丸い葉っぱは、体だよ。 いいね。耳がかわいいな。丸を付けよう。「何をしているところなの」の質問もできているな。</p>
振 り 返 り	<p>4 お互いの話のつなぎ方について振り返る。 【のびのびタイム】</p> <p>△△さんが耳のことや何をしているのか質問してくれたから、3回も話がつながったな。自分が考えたことを聞いてくれると嬉しいな。私も△△さんのように質問しよう。 反応を返すだけじゃなくて、質問をすると話がつながるし、友達が考えたことも分かって楽しいな。目標の3回も達成できたぞ。前よりもレベルアップできて嬉しいな。 動画を見ると〇〇さんは、「この葉っぱが耳なの」や「うさぎが何をしているところなの」と分からないことやもっと知りたいことを聞いているね。前の時よりも質問ができるようになってきているね。 次は、自分の一番お気に入りの作品を見せながら、これまでに見付けた反応を返したり質問したりする言葉を使って楽しくお話したいな。</p>

評 価	教師のモデルを基に、どんなことを質問をすると話がつながるか理解し、見付けた質問の言葉を使って実際に友達と話をつないでいる。そして、友達と動画やチェックシートを基に、自分の話のつなぎ方のよいところを見付けている。 【方法：発言、様相、記述、動画】
--------	--

～見通し～ **学習活動 1**

「葉っぱや木の実が何に見えるか、友達と楽しくお話ししよう」という単元のゴールを位置付けた学習計画を指しながら、「前の時間には、どんな楽しく話をつなぐコツを見つけたかな」と問い、友達と楽しく話をつなぐために「反応を返す」言葉を使って、話をつなげられたことを確認する。そして、「今日は何をするんだったかな」と問い、「どんなことを質問したらよいか考えて、話す練習をしよう」という本時の学習課題を確認する。その際、課題設定の理由を問い、本時の学習課題とゴールとのつながりを意識できている子供に「今日どんな質問をしたらよいか分かったら、さらに楽しくお話できそうだね」などと価値付けることで、本時の課題解決の価値を感じ、意欲的に課題解決に取り組めるようにする。**支**本時の学習課題と単元のゴールについて理解できているか個別に声を掛け、確認する。



【学習計画】

～行 動～ **学習活動 2・3**

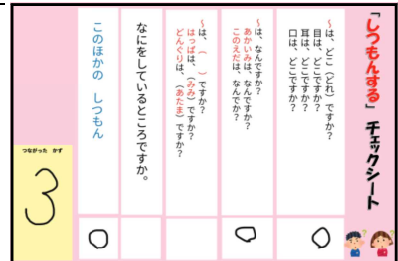
まず教師と支援員が教科書の写真を一つ取り上げ、質問をしながら楽しく話しているモデルを見せる。その際、教師の台詞を板書することで、話した内容を視覚的に捉えられるようにする。そして、モデルから質問する言葉を見付け、この他にもどんなことを質問したらよいか見付けた言葉を基に考えさせることで、分からないことやもっと知りたいことを質問するとよいことを捉えさせる。見付けた言葉は、教師が学習支援アプリを用いてまとめ、その後の練習でチェックシートとして活用できるようにし、全体で共有する。その後、練習を開始する前には「自分がどれくらいレベルアップしたか見付けるためには、どうすればよかったのかな」と問い、「友達と動画やチェックシートを使ってこれまでの話す様子と、今日の話す様子を比べて、できるようになったことを見付ける」という方法を想起させた後、振り返る目的を確認する。実際に話す練習をする際には、生活科の時間に行った見立て遊びのお気に入りの作品を三つの中から一つ選び、三人組で話し手（何に見えたかを話す）、聞き手（話がつながるように質問をする）、チェック係（話し手と聞き手が話し合う様子を記録する）の役割を交代し、何に見えるか質問しながら話をつなぐ練習を行う。その時にチェック係は、学習支援アプリを用いて動画を撮影し、質問する言葉をまとめたチェックシートで、聞き手がどんな質問する言葉を使っていたか、自分たちの会話が何回つながったかを記録しておく。**支** 机間巡視をしながら、学習支援アプリの操作で困っている子供に、操作方法を伝える。また、時間内に練習が終わりそうか確認し、遅れているグループの支援に入る。



【練習の役割分担】

～振り返り～ **学習活動 4** 【のびのびタイム】

話し手や聞き手も一緒に、これまでの動画や本時の動画、チェックシートを見ながら話し方を確認するようにし、話し合う様子を客観的に振り返ることができるようにする。この時、自分たちができるようになったことを、一人が終わってすぐに振り返るのか、三人が全て終わってから振り返るのか選択できるようにする。そうすることで、それぞれのグループに合ったタイミングで振り返られるようにする。また、全グループの振り返りが終わった後、自分の学びを正確に捉えている姿に対して、なぜ自分や友達のできるようになったことを見付けることができたのか問いかけ、友達と一緒に学習前後の自分の話のつなぎ方を比較することのよさを感じている姿を「友達と一緒にこれまでの話し方と今日の話し方を比べることで、どんなところが成長したか見付けられたんだね」などと称賛し、前時までの自分と比較して成長を捉える方法のよさを実感できるようにする。**支**できたことが少ないとネガティブに捉えている子供には、チェックシートや動画を基に具体的な様子を伝えることで、自分の成長を捉えられるようにする。



【チェックシート】

話し手や聞き手も一緒に、これまでの動画や本時の動画、チェックシートを見ながら話し方を確認するようにし、話し合う様子を客観的に振り返ることができるようにする。この時、自分たちができるようになったことを、一人が終わってすぐに振り返るのか、三人が全て終わってから振り返るのか選択できるようにする。そうすることで、それぞれのグループに合ったタイミングで振り返られるようにする。また、全グループの振り返りが終わった後、自分の学びを正確に捉えている姿に対して、なぜ自分や友達のできるようになったことを見付けることができたのか問いかけ、友達と一緒に学習前後の自分の話のつなぎ方を比較することのよさを感じている姿を「友達と一緒にこれまでの話し方と今日の話し方を比べることで、どんなところが成長したか見付けられたんだね」などと称賛し、前時までの自分と比較して成長を捉える方法のよさを実感できるようにする。**支**できたことが少ないとネガティブに捉えている子供には、チェックシートや動画を基に具体的な様子を伝えることで、自分の成長を捉えられるようにする。